

取扱説明書

このたびは本製品をお買い求めいただき、まことにありがとうございます。この取扱説明書には安全に使用していただくための要点を記しておりますので、ご使用前に必ずよくお読みになり正しくご使用ください。お読みになった後はいつでも読める場所に保管してください。また、本書を汚損したり紛失した場合はお買い求めの販売店にご注文いただき、大切に保管してください。

本書に記載した⚠の表示のある注意事項や機械に貼られた⚠の表示のあるラベルは、人身事故等の危険が考えられる重要な項目です。よくお読みになり必ずお守りください。なお⚠の表示のあるラベルが汚損したり、はがれた場合はお買い求めの販売店にご注文いただき必ず所定の位置にお貼りください。

本書に記載した⚠の表示のある注意事項や機械に貼られた⚠の表示のあるラベルでは特に重要と考えられる取り扱い上の注意事項について、次のように3段階に分けて表示しています。

- ⚠危険…その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになります。
- ⚠警告…その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負う危険性があります。
- ⚠注意…その警告文に従わなかった場合、けがを負う恐れがあります。

また、製品の故障や損傷につながる使い方に関する注意事項については、本書に【重要】の表示を用いています。

目次

- ◇安全のために必ずお守りください…①
 - 作業前
 - 農薬・薬液の取り扱い
 - 作業中
 - 作業後と保管
- ◇仕様…③
- ◇ポンプ及びノズル性能表…④
- ◇梱包部品一覧…④
- ◇各部の名称とラベル貼付位置…⑤
- ◇運転を始めるまえに…⑥
- ◇運転…⑧
- ◇整備と長期保管…⑪
- ◇故障と対策…⑬

ASB 株式会社 麻場

本社／〒381-8530 長野市北長池1443-2
TEL：026-244-1317（代）
URL：http://www.asaba-mfg.co.jp

680005190-2009.06

安全のために必ずお守りください

★作業前



危険

- ・火災の恐れがありますので、燃料補給時は次の項目を必ず守ってください。
 - ・燃料はエンジンを止めた状態で補給してください。
 - ・燃料補給時は火気に充分注意してください。
 - ・高温部に燃料がかからないように補給してください。
 - ・燃料タンクの給油口一杯まで燃料を入れないでください。
 - ・燃料がこぼれたらきれいにふき取ってください。
 - ・燃料補給後、燃料キャップは確実に閉めてください。
- ・燃料、薬液を充填後、本機を傾けると燃料、薬液がもれる恐れがあります。本機は必要以上に傾けたり、落下させないでください。
- ・燃料、薬液を充填後、定置使用する場合や自動車などで運搬する場合は、燃料、薬液がもれる可能性がありますので必ず本機が倒れたり、傾かないように固定してください。



注意

- ・次に該当する方は、この製品を使用しないでください。
 - ・酒気をおびた人
 - ・過労、病気、薬物（農薬を含む）の影響その他の理由により、正常な防除作業ができない人
 - ・妊娠中の人
 - ・満15歳未満の人
 - ・負傷中の人、生理中の女性等農薬による影響を受けやすい人
- ・作業前に燃料もれがないこと、接続部のパッキンに脱落がないこと、各ネジ部にゆるみがないこと、ホースに亀裂、摩耗、破損のないこと等各部に異常がないことを確認してください。
- ・安全性を損なう恐れがありますので、改造しないでください。
- ・この製品を他人に貸与または譲渡する場合は必ず取扱説明書を添付し、よく読んでから使用するよう指導してください。

★農薬・薬液の取り扱い



危険

- ・防除、除草用の農園芸用薬品の散布、散水用途以外には使用しないでください。
- ・調合が適切でない薬液は、作物を傷めるだけでなく人体にも有害になる恐れがあります。薬液の調合の際は、農薬の使用上の注意をよく読み、正しく希釈してから使用してください。
- ・農薬は必ず専用の保管箱に鍵をかけて保管し、絶対に食品や食器とは一緒に保管しないでください。
- ・誤使用、誤飲の危険がありますので、農薬は絶対に別の容器に移し替えないでください。
- ・農薬の空容器は、散布液調合時に必ずよく洗い薬品メーカーの指示に従って、その都度正しく処分してください。空容器を洗った水は薬害のない方法で処理してください。

★作業中



危険

- ・農薬の吸入や付着による事故を防ぐため、帽子、保護眼鏡、保護マスク、ゴム手袋、長袖の保護衣、長ズボン、ゴム長靴を着用し、皮膚が露出せず危険のない服装で作業を行ってください。
- ・運転中および停止直後のエンジン（マフラ等）は高温になっています。やけどをする恐れがありますので不用意に触れないでください。
- ・ハウス内での使用は人体に悪影響を及ぼす恐れがありますので、よく換気をしてください。



注意

- ・薬液が水道、河川、池、沼などを汚染しないように、また、人体や散布対象物以外のものにかからないよう風や周囲の状況に充分注意して作業を行ってください。
- ・作業中、作業後にめまいや頭痛を生じまたは気分が少しでも悪くなった場合には直ちに医師の診察を受けてください。
- ・作業中に噴口部を清掃または交換する場合は、顔面などに薬液がかかる恐れがありますので、ボールコックを閉じて、必ず調圧弁ダイヤルを『始動：0』の位置に合わせ、エンジンを停止してから行ってください。
- ・ホース類はエンジン高温部（マフラ等）に触れないで無理な曲げ、よじれ、折れ、引っ張りがないよう注意して作業を行ってください。
- ・ホースの温度は40℃以下で使用してください。40℃以上になりますと耐圧性能が低下します。

★作業後と保管



注意

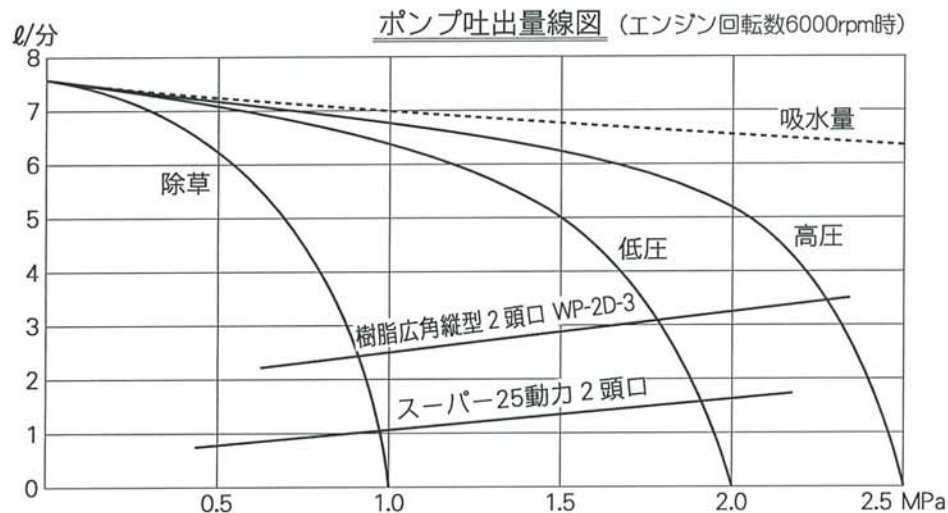
- ・前回使用した薬液が薬液タンク、ホース、ノズルパイプ、噴口等の内部に残っていると薬害を起こす危険性があります。特に除草剤散布に使用した後、一般防除作業に使用する場合は、残っている薬液を十分に洗い流してください。
- ・余った薬液及び機械の洗浄水は、河川、水源池、池、沼、下水等に流入して被害を及ぼさないよう、薬害のない方法で処理してください。
- ・エンジンを止めてもポンプ～ホースに圧力が残っていることがあります。この状態で接続部を取り外すと薬液が噴き出す恐れがありますので、接続部を外す前に周囲の状況を確認し、ボールコックを開いてポンプ～ホース内の圧力を抜いてください。
- ・作業後は手足はもちろん、全身を石鹸でよく洗うとともに目の水洗いとうがいをしてください。また作業期間中は衣服を毎日取り替えてください。
- ・使用後は薬液タンク内を充分洗浄し、屋内の直射日光が当たらず風通しの良い子供の手の届かない場所に保管してください。

仕 様

型 式	EP-920KX	EP-925KX
本機寸法 (H×W×L)	590×400×370mm	620×425×370mm
質 量	9.2kg	9.3kg
薬液タンク容量	20ℓ	25ℓ
ポンプ	形 式	対向2連プランジャ式
	ポンプ吸水量	7.7ℓ/min(1740rpm 時)
	最 高 圧 力	2.5MPa
エンジン	燃料タンク容量	0.6ℓ
	使 用 燃 料	混合ガソリン(混合比20～25:1)
	エンジン型式	新ダイワS231SP/AS 空冷2サイクル
	エンジン排気量	22.5cc
	キャブレタ	循環式キャブレタ
	最 高 出 力	0.8kW(1.1PS)/7000rpm
	点 火 方 式	電子点火
ン	スパークプラグ	チャンピオン CJ8Y
	始 動 方 式	リコイルスタータ

※改良のため予告なく仕様を変更することがあります。

ポンプ及びノズル性能表



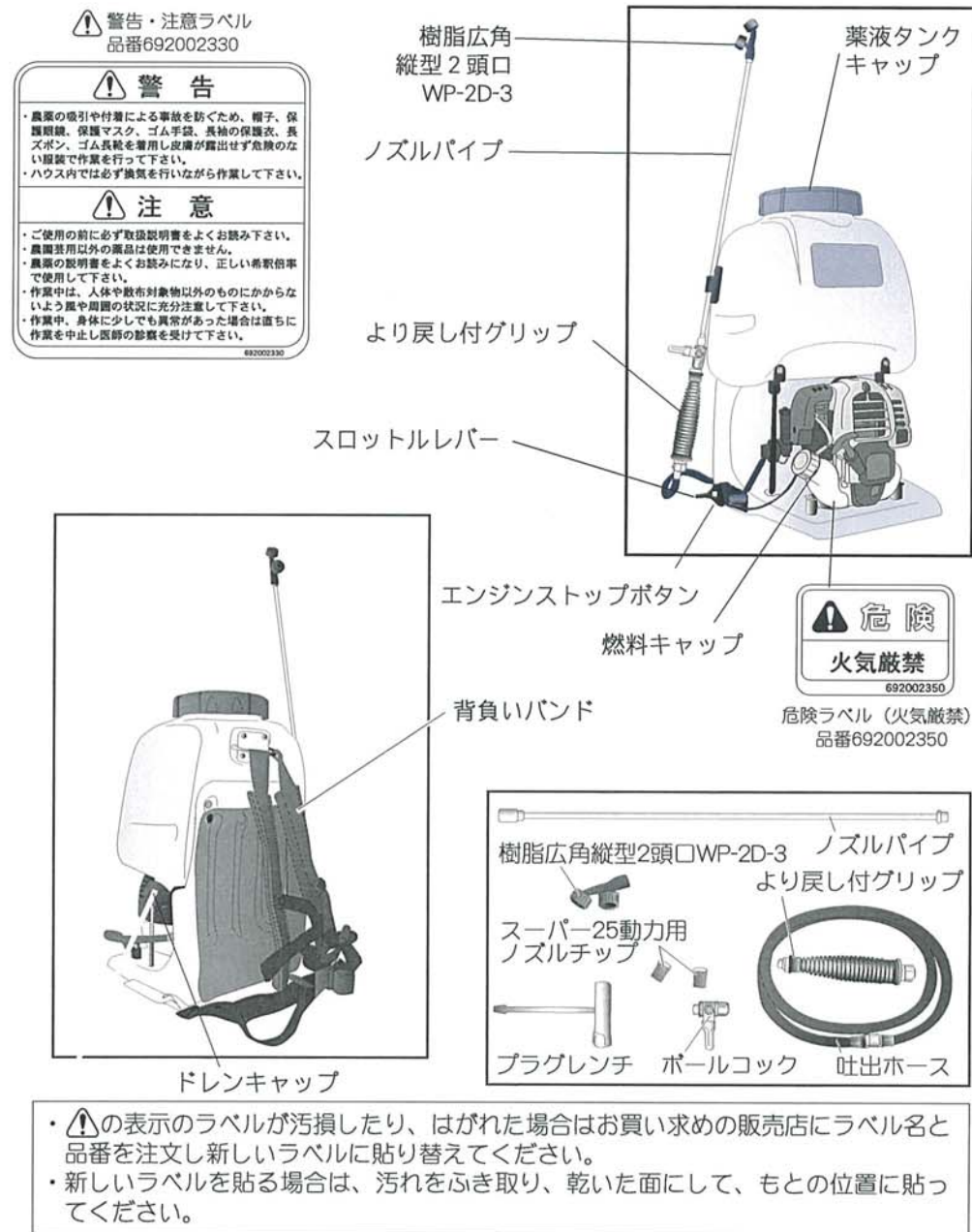
梱包部品一覧

最初に梱包部品が全部そろっているかどうか、輸送中の事故で破損している部品がないかを確認してください。もし、欠品または破損などありましたら、製品名、型式、製造番号と共に買い求めの販売店にお知らせください。

保証書はお客様が保証修理を受けられる際に必要となるものです。お読みになった後は大切に保管してください。

部	品	数量
プラグレンチ		1
樹脂広角縦型2頭口WP-2D-3	G1/4	1
スーパー25動力用ノズルチップ		2
より戻し付グリップ		1
ボールコック	G1/4	1
ノズルパイプ		1
吐出ホース(1.2m)		1
本体一式		1
取扱説明書(本書)		1
保証書(本書末尾)		1

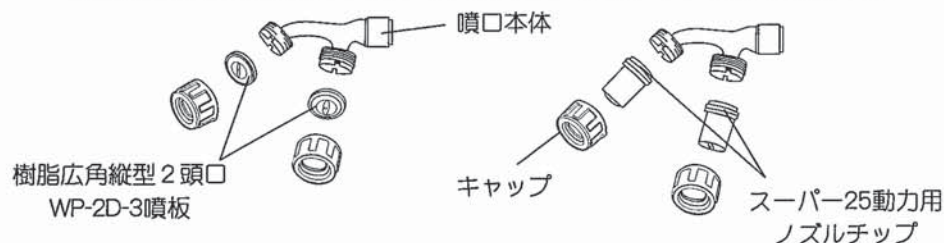
各部の名称とラベル貼付位置



運転を始めるまえに

①部品の取り付け

- 1) ポンプの吐出口に付属品の、吐出ホース、より戻し付グリップ、ボールコックノズルパイプ、噴口の順にしっかりと組み付けてください。
- 2) 本機には標準噴口として、樹脂縦型2頭口が付属しています。他の噴口を使用する場合、噴口によっては性能を保証できないものもありますので《ポンプ及びノズル性能表》を参照して、樹脂縦型2頭口と同等の噴口を選択してください。
- 3) 付属のスーパー25動力用ノズルチップ（ラウンドアップ専用噴口）を使用する場合は、樹脂縦型2頭口の噴板とスーパー25動力用ノズルチップを組み替えてください。（ラウンドアップは米国モンサント社の登録商標です。）
- 4) 組み替え方法は樹脂縦型2頭口の噴板とスーパー25動力用ノズルチップの突起を噴口本体の溝に合わせキャップを手でしめ付けます。キャップは共通です。

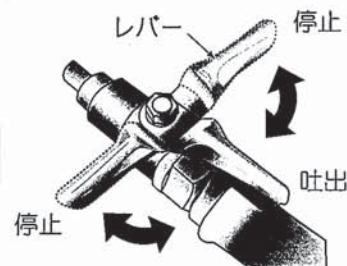


- ⚠注意** ・作業前に燃料もれがないこと、接続部のパッキンに脱落がないこと、各ネジ部にゆるみがないこと、ホースに亀裂、摩耗、破損のないこと等各部に異常がないことを確認してください。

②ボールコックの取り扱い

- 1) コックはレバーを回転することによって吐出、停止を切り替えできます。

- ⚠注意** ・噴霧作業中以外はボールコックを停止の状態にしてください。



③薬液の調合、充填

- 1) 薬液タンク容量は20ℓ(25ℓ)です。薬液タンク側面に5、10、15、20(25)ℓの目盛りが付いていますので充填、混合の目安にしてください。
- 2) 農薬は他の容器で調合してください。やむをえず薬液タンク内で調合する場合は必ず最初に水を所要量の半分ほど入れてから農薬を入れ、残りの水を入れて希釈してください。

- 重要** ・薬液あるいは清水を薬液タンクに入れる時は、必ず付属のストレーナを通して入れてください。薬液タンク内の薬液、清水に異物やゴミ等が混じると、故障の原因になります。

⚠注意

- ・薬液を薬液タンクに充填後、薬液タンクキャップは確実にしめてください。
- ・防除、除草用の農園芸用薬品の散布、散水用途以外には使用しないでください。
- ・調合が適切でない薬液は、作物を傷めるだけでなく人体にも有害になる恐れがあります。薬液の調合の際は、農薬の使用上の注意をよく読み、正しく希釈してから使用してください。
- ・薬液を入れる前に、必ずエンジンは停止させ、ボールコックは必ず閉じた状態にしてから薬液を入れてください。

④燃料の充填

重要

- ・燃料は必ず潤滑油混合ガソリンを使用してください。
- ・混合比は、自動車用無鉛ガソリン25に対して、2サイクルエンジン専用オイル1の割合で混合してください。エンジンの性能を十分に引き出すため、使い初めの20時間前後はオイルを多めに入れて（ガソリン：オイル＝20：1）慣らし運転を行ってください。
- ・燃料の混合は本体の燃料タンクで行わず、必ず別容器を用いてください。

⚠危険

- ・火災の恐れがありますので、燃料補給時は次の項目を必ず守ってください。
- ・燃料はエンジンを止めた状態で補給してください。
- ・燃料補給時は火気に充分注意してください。
- ・高温部に燃料がかからないように補給してください。
- ・燃料タンクの給油口一杯まで燃料を入れないでください。
- ・燃料がこぼれたらきれいにふき取ってください。
- ・燃料補給後、燃料キャップは確実に閉めてください。
- ・燃料、薬液を充填後、本機を傾けると燃料、薬液がもれる恐れがあります。本機は必要以上に傾けたり、落下させないでください。
- ・燃料、薬液を充填後、定置使用する場合や自動車などで運搬する場合は、燃料、薬液がもれる可能性がありますので必ず本機が倒れたり、傾かないように固定してください。

⑤定置使用

*別売りの吸水ホースと余水ホースを使用して、別薬液タンクから散布する場合。

- 1) 本機のポンプ側に付いている、吸水ホースと余水ホースを外します。
- 2) 別売りの吸水ホースと余水ホースを本機に取り付け、ホースバンドでしっかりとめます。
- 3) 通常の散布と同様の手順で、エンジン、ポンプを操作します。

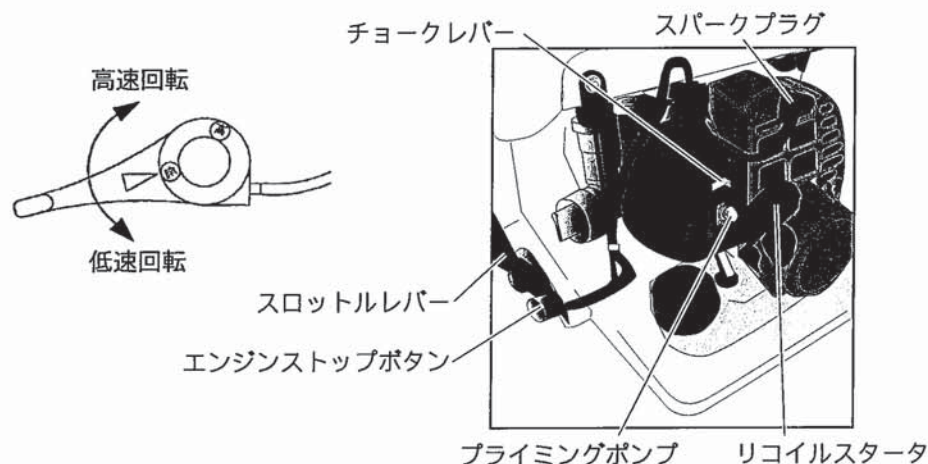
⚠危険

- ・本機が転倒し燃料、薬液がもれる可能性がありますので、本機を凹凸のない、平らな場所に設置してください。

⚠注意

- ・吸水ホース、余水ホースは別薬液タンクから飛び出さないよう薬液タンクに固定してください。
- ・ホース類はエンジン高温部（マフラ等）に触れないで、無理な曲げ、よじれ、折れ、引っ張りがないよう注意して作業を行ってください。
- ・ホースの温度は40℃以下で使用してください。40℃以上になりますと耐圧性能が低下します。

運 転



①始動（エンジンが冷えている場合）

- 1) 調圧弁ダイヤルを『始動：0』の位置に合わせます。
- 2) スロットルレバーを低速回転側（アイドル回転側）に合わせます。
- 3) チョークレバーを『閉』の位置に合わせます。
- 4) キャブレタのプライミングポンプを指で4～5回押してキャブレタに燃料を充分に送り込みます。
- 5) エンジンを手で押さえ、リコイルスタータを引っ張り、混合気をシリンダに吸い込ませます。改めてリコイルスタータを引っ張るとエンジンは始動します。
*）蓄力式リコイルの為、勢いよく引っ張る必要はありません。
- 6) エンジンが始動したら、1～2分間暖気運転を行ってください。
このとき様子を見ながらチョークレバーを徐々に開いて行きます。暖気運転が終了したら、チョークレバーが『全開』になっている事を確認します。

②再始動（エンジンが暖まっている場合）

- 1) 運転停止直後に再始動するときはチョークレバーを『全開』にして始動します。
始動しない場合はエンジンが冷えている場合の始動法を始めから行ってください。

重要

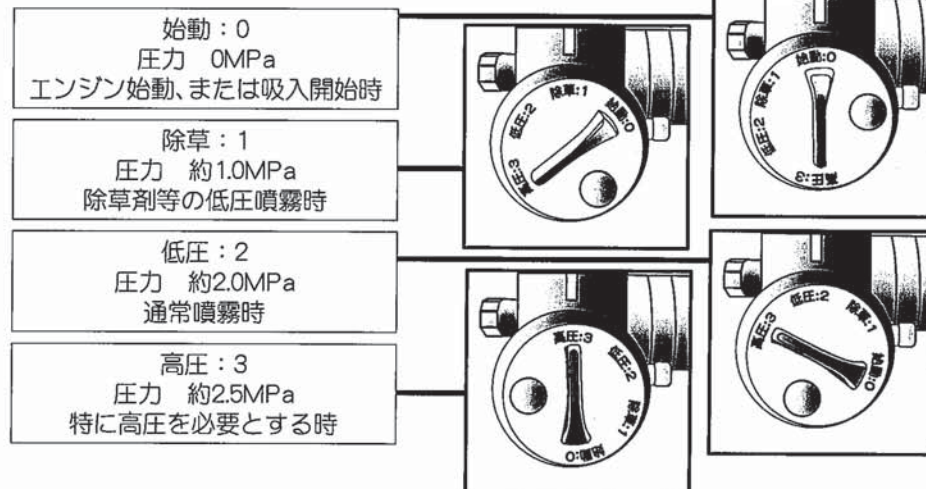
- ・リコイルスタータのロープは、一杯に引ききらないでください。
- ・引いたロープを手離さないで、静かにもとに戻してください。

⚠注意

- ・防除作業以外の時は液漏れや、突然の噴霧防止のためレバーコックは必ず閉じた状態にしてください。始動前には必ず確認してください。

③散布作業

- 1) 薬液タンクキャップが確実にしまっていることを確認します。
- 2) 調圧弁ダイヤルは『始動：0』、『除草：1』、『低压：2』、『高压：3』の位置で『カチッ』と止まります。次の図表を参照し、作業条件に合わせて設定します。
- 3) 始動した本機を背負い、スロットルレバーを高速回転側に回し、エンジン回転が安定する位置にレバーを止めます。
- 4) レバーコックを開いて散布作業に入ります。



*上記圧力はボールコックを閉じた状態での圧力です。噴霧時の圧力は使用する噴口の吐出量によって変化しますので、ポンプ性能表を参照してください。

重要

- ・遠心クラッチを使用しています。クラッチが滑るような低速回転での使用は避けてください。（クラッチが滑ると、薬液の吐出が不安定になります。）
- ・作業中に噴霧を一時停止させる時は、ボールコックを閉じ、スロットルレバーを低速回転側に戻してポンプを停止してください。燃料の節約、エンジン、ポンプの耐久性向上に役立ちます。

⚠警告

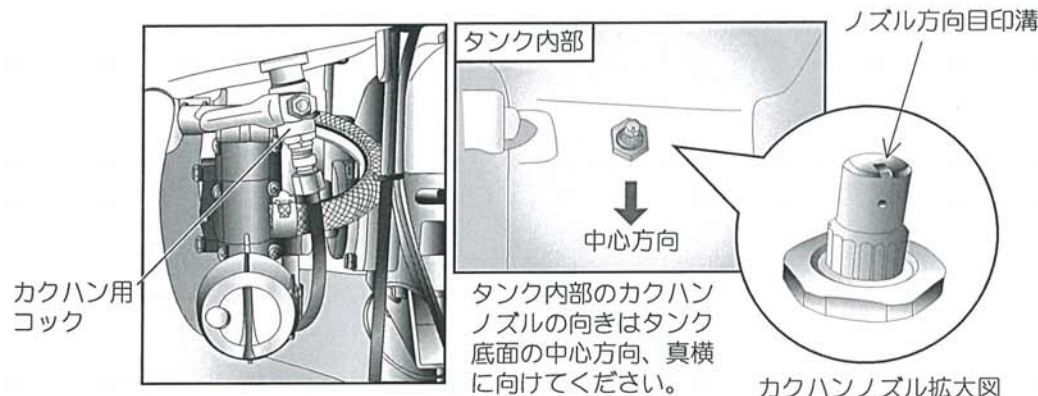
- ・農薬の吸入や付着による事故を防ぐため、帽子、保護眼鏡、保護マスク、ゴム手袋、長袖の保護衣、長ズボン、ゴム長靴を着用し、皮膚が露出せず危険のない服装で作業を行ってください。
- ・運転中および停止直後のエンジン（マフラ等）は高温になっています。やけどをする恐れがありますので不用意に触れないでください。
- ・ハウス内での使用は人体に悪影響を及ぼす恐れがありますので、よく換気をしてください。

⚠注意

- ・作業中に噴口部を清掃または交換する場合は、顔面などに薬液がかかる恐れがありますので、ボールコックを閉じ、必ず調圧弁ダイヤルを『始動：0』の位置に合わせて、エンジンを停止してから行ってください。
- ・薬液が水道、河川、池、沼などを汚染しないように、また、人体や散布対象物以外のものにかからないよう風や周囲の状況に充分注意して作業を行ってください。
- ・作業中、作業後にめまいや頭痛を生じまたは気分が少しでも悪くなった場合には直ちに医師の診察を受けてください。
- ・ホース類はエンジン高温部（マフラ等）に触れないで、無理な曲げ、よじれ、折れ、引っ張りがないよう注意して作業を行ってください。
- ・ホースの温度は40℃以下で使用してください。40℃以上になりますと耐圧性能が低下します。

④薬液タンク内のカクハン機能

- 1) カクハン用コックを開きます。
- 2) タンク内部のカクハンが始まります。
- 3) 散布作業中に薬液タンク内の残液が約0.5ℓ以下になったらカクハン用コックを閉じます。(薬液タンク内の薬液泡立ち防止です。)



⑤停止

- 1) ボールコックを閉じます。
- 2) 調圧弁ダイヤルを『始動：0』の位置に合わせます。
- 3) スロットルレバーを低速回転側に戻します。
- 4) エンジンストップボタンを押してエンジンを止めます。

重要

- ・使用中に薬液が無くなったときは、速やかにスロットルレバーを低速回転側に戻しエンジンを停止してください。
- ・ポンプの空運転は故障の原因になります。作業中、整備点検中を問わずに、30秒以上は行わないでください。

⑥使用後のお手入れと保管

- 1) ドレンキャップを外し、薬液タンク内の残液を排出します。
- 2) 薬液タンクに清水を入れ、エンジンを運転して噴口より吐出させ、ポンプ、ホース、ノズルパイプ、噴口及びカクハンノズルを洗浄します。清水が吐出しなくなったら速やかにエンジンを停止します。

⚠注意

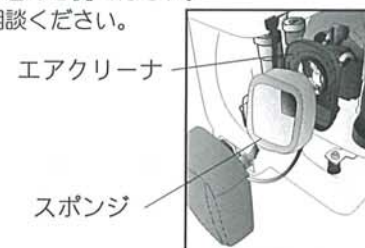
- ・前回使用した薬液が薬液タンク、ホース、ノズルパイプ、噴口等の内部に残っていると薬害を起こす危険性があります。特に除草剤散布に使用した後、一般防除作業に使用する場合は、残っている薬液を十分に洗い流してください。
- ・余った薬液及び機械の洗浄水は、河川、水源池、池、沼、下水等に入流して被害を及ぼさないよう、薬害のない方法で処理してください。
- ・エンジンを止めてもポンプ～ホースに圧力が残っていることがあります。この状態で接続部を取り外すと薬液が噴き出す恐れがありますので、接続部を外す前に周囲の状況を確認し、ボールコックを開いてポンプ～ホース内の圧力を抜いてください。
- ・使用後は充分洗浄し、屋内の直射日光が当たらず風通しの良い、子供の手の届かない場所に保管してください。

整備と長期保管

* 日常なお手入れは<<運転>>の⑥使用後のお手入れと保管をご覧ください。
整備に関してのご不明な点はお買い求めの販売店にご相談ください。

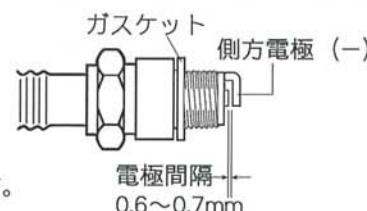
①エアクリーナ

エアクリーナ内のスポンジが汚れていると吸気が不安定となり、エンジンの性能が充分に発揮されません。時々エアクリーナを外しスポンジをガソリンまたは洗油で洗浄し、固く絞ってから取り付けてください。



②スパークプラグ

50時間の運転を目安にスパークプラグの点検清掃を行ってください。ワイヤブラシ等でカーボン堆積物を除去し、電極間隔を0.6～0.7mmに調整します。著しい汚れ、欠損がある場合はスパークプラグを新品に交換してください。
指定スパークプラグは、NGK CMR 6 A相当品です。



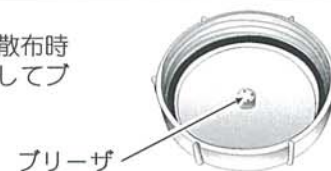
③配管

⚠注意

- ・タンク、ホース、接続部分にヒビ、割れ、漏れがないか確認します。異常がある場合は速やかに交換してください。

④ブリーザ

薬液タンクキャップ裏側にあるブリーザ穴が詰まると、散布時に薬液タンクがへこみ破損する恐れがあります。時々外してブリーザ内のブリーザ弁及び通気穴を清掃してください。
組み立ての際はブリーザ弁の向きに注意してください。



⑤ポンプ内部のシール類

2年の使用を目安にポンプ内部のシール類の交換をお勧めいたします。シール類の交換についてはお買い求めの販売店にご相談ください。
(補修パーツとしてポンプパッキンセットが用意されています。)

⑥長期保管

長期間(約60日以上)に渡って本機を使用しないときは、次の事項を実施してください。

重要

- ・薬液タンクに清水を入れ、エンジンを運転してポンプやホースを洗浄してください。
- ・冬期間の凍結防止のため余水ホースと吐出ホース及び吸水口プラグをポンプから外して、エンジンを運転し完全に水抜きを行ってください。この時、必要以上(5秒以上)にポンプの空運転を行わないようにしてください。保管時は上記のホース、吸水口プラグは外しておいてください。
- ・燃料タンクの残留燃料を完全に抜き取ります。燃料タンクを空にした後、プライマポンプを数回押してキャブレタ内の燃料も抜いてください。
- ・スパークプラグを外し、スパークプラグ孔から4～5滴のエンジンオイルをシリンダに流し込みます。スパークプラグを付けリコイルスタータを2～3度引いて、オイルをシリンダ内に行き渡らせます。
- ・プラスチック部品は直射日光に長期間さらされると、著しく強度が低下する事があります。また、注意表示ラベルも変色したり、はげやすくなったりしますので保管には充分注意してください。

カクハン用コック

余水ホース

吐出口

吸水ホース

吸水口プラグ



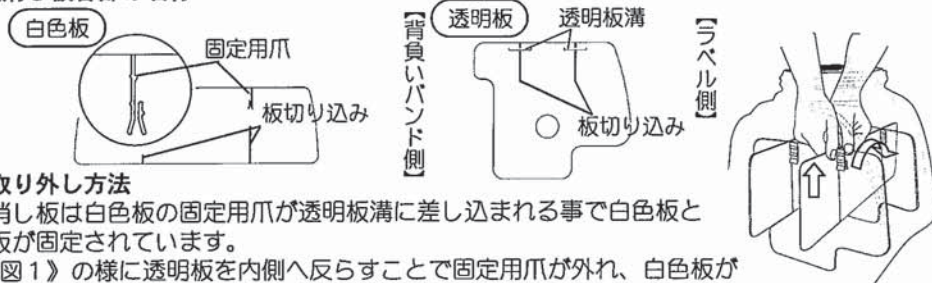
・本体、エンジン、ポンプの外部を洗浄し、充分に乾燥させてからカバー等を掛け屋内の直射日光が当たらず風通しの良い、子供の手の届かない場所に保管してください。

⑦波消し板の取り外し方、組み付け方



・農薬の付着による事故を防ぐため、あらかじめタンク内部、波消し板をよく洗浄し、よく乾かしてから作業してください。

※波消し板各部の名称



1. 取り外し方法

波消し板は白色板の固定用爪が透明板溝に差し込まれる事で白色板と透明板が固定されています。

1-1 《図1》の様に透明板を内側へ反らすことで固定用爪が外れ、白色板が上部方向へ抜けてきます。

1-2 白色板2枚を取り外してから透明板をタンクから取り外します。

《図2-↑参照》

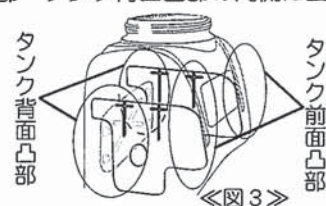
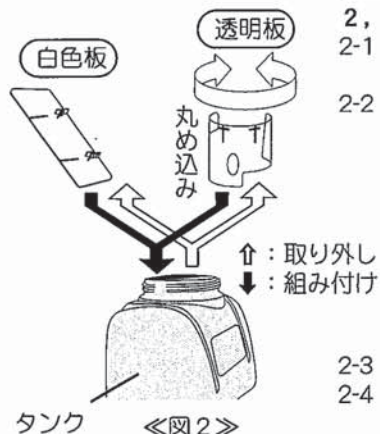
重要 波消し板は力を加えすぎると変形、折れ目等付くことがあります。

2. 組み付け方法

2-1 透明板を1枚ずつ丸め込み、タンク内部へ挿入します。

《図2-↓参照》

2-2 透明板をタンク形状に合わせ固定させます。《図3》
(タンク前面凸部-タンク背面凸部の内側に立ててください。)



2-3 白色板1枚をタンク内部へ挿入します。《図2-↓参照》

2-4 白色板の切り込み部を透明板の切り込み部へ差し込みます。
(白色板の固定用爪を透明板溝まで差し込みます。)

2-5 白色板残り1枚を同様に透明板の切り込み部へ差し込みます。

故障と対策

①ポンプ

現象	原因	対策
吸水しない	タンクに薬液がない	補給する
	吸入弁、吐出弁にゴミが詰まっている	※
	ポンプ内部のシール類が摩耗または損傷	※
	吸水ホースの詰まり	ホースを外し、洗浄する
圧力が上がらない または安定しない	ポンプの回転数が低い	エンジンの回転数を上げる
	遠心クラッチのスリップ	※
	調圧弁の詰まり、または摩耗、傷	※
	吸入弁、吐出弁にゴミが詰まっている	※
噴霧状態が悪い	ポンプ内部のシール類が摩耗または損傷	※
	圧力が上がらない	前述参照
	噴板穴の摩耗	新品に交換する
液漏れ	噴口が不適切	ポンプ性能に合った噴口を使用する
	ポンプ内部のシール類が摩耗または損傷	※

ポンプ内部のシール類に関しては補修パーツ（ポンプパッキンセット）が用意されています。お買い求めの販売店にご相談ください。

②エンジン始動不能、または始動困難

現象	原因	対策
キャブレタまでガソリンが来ていない	燃料タンクにガソリンがない	給油する
	プライミングしていない	プライミングポンプを4～5回押す
	燃料チューブの詰まり	清掃、曲がりを矯正する
	燃料タンクキャップの通気穴の詰まり	清掃する
スパークプラグに火花が飛ばない	スパークプラグの不良	新品と交換する
	スパークプラグが汚れている	ワイヤブラシ等で清掃する
	スパークプラグの電極間隔が不適	0.6～0.7mmに調整する
	スパークプラグキャップ不良、またはスパークプラグコード断線	新品と交換する
	点火装置不良	※
爆発の兆候がない	チョークの開きすぎ	チョークを閉じて始動する
	キャブレタの詰まり、または調整不良	※
スパークプラグが濡れている	チョークの閉じ過ぎ	スパークプラグを乾燥させ、チョーク全開で再始動する
その他	キャブレタのオーバーフロー	※
	マフラの詰まり	清掃、または交換をする
	燃料、オイルの不適切	規定の燃料、オイルを使用する

③エンジンの回転不調、または出力不足

現 象	原 因	対 策
エンジンが異常に加熱する	燃料不適切	規定の燃料を使用する
	冷却不足	冷却風通路、シリンダフィンを清掃する
	スパークプラグ不良	清掃、電極間隔の調整、交換をする 正規の熱価のスパークプラグを使用する
	燃焼室にカーボンが堆積している	※
スパークプラグに飛ば火花が弱い	スパークプラグ不良	清掃、電極間隔調整、交換をする 正規の熱価のスパークプラグを使用する
吸、排気系の不具合	エアクリーナが汚れている	清掃する
	キャブレタの詰まり、調整不良	※
	マフラの詰まり	清掃、または交換をする

④エンジン運転中停止する

現 象	原 因	対 策
運転中、急停止する	ピストンの焼き付き	※
	スパークプラグの短絡	スパークプラグを清掃、電極間隔の調整をする
エンジン回転が次第に下がり、やがて停止する	燃料切れ、または不足	燃料を給油する
	キャブレタの詰まり、調整不良	※
	燃料内異物混入	新しい燃料と交換する
エンジン回転が急激に上がり停止する	燃料切れ、または不足	燃料を給油する

⑤エンジン停止が困難

現 象	原 因	対 策
エンジンストップボタンを押してもエンジンが停止しない	エンジンストップボタンのアース不良	配線の点検、交換をする
	スパークプラグ先端部の赤熱	清掃、電極間隔の調整、交換をする 正規の熱価のスパークプラグを使用する
	ディーゼリング	※

※印の不具合対策に関してはお買い求めの販売店にご相談ください。

その他、不明な点は販売店にご相談ください。